



65. スナガレイ *Pleuronectes punctatissimus* (Steindachner)

図版26

英名 sand flounder, longsnout flounder

露名 ドリノルイラヤ カムバラ
Длиннорылая камбала

地方名(北海道) バンガレイ、カワガレイ

漢字 砂鱈

アイヌ語名 サルポキシューニンサマンペ、サルポキ、ウソルンカパリウ

【形態】 体はひし形で、強く側扁*する。頭は、カレイ類のなかでは大きいほうである。両眼の間は隆起し、間隔は狭い。頭部背縁は上眼の前方でくぼみ、吻*が上向きに突出する。口は小さく、両あごに門歯*状の小さな歯がある。側線*は胸びれの上方で大きく湾曲する。有眼側*は暗褐色で、砂粒状の黒点および白点がある。無眼側*は白色で、背と腹の両縁に鮮やかな黄色帯が走る。体長*30cmになる。

【生態】 岩手県以北の日本海と太平洋、朝鮮半島、サハリン、オホーツク海南部、千島列島の沿岸に分布。北海道では各地の沿岸にみられる。水深100mより浅い海底に生息し、底質が砂の所に多い。

北海道北部では、オホーツク海と日本海の間を数百kmにわたって大きく回遊*する群れがある。この群れは日本海で産卵し、生まれた魚の一部はそのまま日本海で一生を過ごす、大部分は海流に乗ってオホーツク海に運ばれ、

そこで未成魚*期までを過ごす。生殖巣が発達し始めると、再び日本海へと産卵のため回遊する。

このほかに、網走湾の一部、常呂・紋別^{ところ}海域、サロマ湖内などで産卵する群がある。

雌は満3歳か4歳で、雄は満3歳で性成熟*する。生物学的最小形*は、雌は体長12.0cm、雄が体長10.1cm。

抱卵数*は体長20~25cmのもので約16万~36万粒、体長25~30cmで約48万~72万粒。産卵期は北海道北部日本海では5~6月、北海道のオホーツク海沿岸では6~7月、アニワ湾・南千島・サハリンのオホーツク海東岸では6月~8月上旬。産卵は水深50mより浅い沿岸で行われ、この時の産卵場の底層水温は5~16°Cである。

成熟卵*は分離浮性卵*で油球*はなく、淡い黄橙色の球形で直径0.7~0.9mm。受精からふ化までは平均水温15.6°Cで83時間前後、17.6°Cで69時間前後である。ふ化直後の仔魚^{しぎよ}*は全長*2.8mm前後。浮遊生活を送った後、海底での生活に入る。

カレイ類のなかでは小型で成長は遅い。オホーツク海のもの体長は、1歳で雌4~5cm、2歳で10cm、3歳で13cm、4歳で15cm。オホーツク海や北海道北部日本海では、着底*直後の稚魚*から満1歳の幼魚*が、水深30m以下のごく浅い所に多く見られる。オホーツク海では、1歳魚は成長の良いものほど沖合に分布する。底生性の小動物を食べる。